

第13回 グループディスカッション対策講座

～文学部・経済学部合同企画～

日時：2019年1月21日（火）

【1回目】14:35～16:05 【2回目】16:20～17:50

場所：経済学部251講義室

講師：北濱愛美氏（株式会社マイナビ）

今回のリテラアワーでは、マイナビの北濱先生にグループディスカッション対策についてお話しいただくとともに、実際に参加者がグループを作ってディスカッションを行いました。グループディスカッションのポイントは、「積極的に発言する」「アイデアを出す」といった動的な面と、「周りの意見を聞く」「雰囲気作りを心がける」といった静的な面の両方を意識することです。

グループディスカッションで最も重要なのは、メンバーが一丸となって、「時間内に」「全員で」「最高の結論を」導き出すことにあります。採用する側としては、グループ内から何名を合格させ、何名を不合格にする、といった明確な決まりがあるわけではなく、全員を合格にする場合もあれば、全員を不合格にする場合もあるとのこと。チームの雰囲気作りのためには、積極的に自己紹介をしたり、待ち時間に軽く会話を交わしたりといったことが重要になってきます。

グループディスカッションは、時間の制限が設けられるため、役割（司会、書記、タイムキーパー）を決める、タイムスケジュールを決める、といったことも必要になってきます。また、話し合いをスムーズに進めるためには、アイコンタクトを取ったり相づちを打ったりする、簡潔に的確に結論から話す、といったことにも留意するとよいでしょう。逆にNG事項としては、発言をしない（同調だけ）、一方的に話をする、否定や批判を繰り返す、姿勢や態度が悪い、といったことが挙げられます。

今回は参加者をそれぞれ10名ほどのグループに分け、さらに各グループ5名ずつを2回に分けて（残りの5名はフィードバック役）、それぞれ討論を20分、発表を各グループ1分ずつ行い、その後、ペアによるフィードバックを行いました（テーマは「日本の新しい国民の祝日を考えてください」「鉛筆を1本10万円で売る方法を考えてください」）。

討論、発表の後、北濱先生より全体的にいくつかの点が指摘されました。表情が硬い、声が小さい、といった点はマイナスに評価されるので気をつけること、最初に結論が出て、それに対する理由づけに時間をとりすぎている感があるので、もう少し丁寧に議論を重ねること、それぞれが考える時間をとるよりも、とにかくディスカッションしながら前に進めていくこと、等です。そもそも企業がグループディスカッションを行う理由は、企業という集団の中でどのように立ち回れるかを見るためです。その場しのぎではなく、日常生活から変えていく必要があります。

最後に、アンケートの中から、感想をいくつかご紹介します。「実践を通して、グループディスカッションの際にどこに注意すればよいか分かった。」

「フィードバックを得られたことで、自分の長所や欠点が客観的に把握できた。」

「他人の意見や振る舞いから多くのことを学べた。」

「採用担当者がどこを見ているのかが分かった。」

参加者：【1回目】学部・大学院生28名、教職員3名

【2回目】学部・大学院生37名、教職員3名

